

シカ・イノシシを田んぼに入らせない 電気柵の点検で確実に感電させる

稲穂が付き始め、稲刈りも近づいてきました。収穫まで、シカ等に稲穂を食べられないため、春に設置した電柵がきちんと稼働しているか、今一度再確認で大切なお米をシカから守りましょう！

【一番大事な電圧の確認】

電気柵の管理で一番大切なことが、電圧の点検になります。最低でも5000V以上の電圧がないと、電気が毛皮にさえぎられたり、痛くても我慢したりして電気柵を通過してきます。

また、日々電圧を点検することで、電池切れや断線、漏電、下草の絡まりなどのトラブルに速やかに気付くことができます。

電気柵の点検は、通電しているかだけでなく、どれほど電圧が出ているかが効果に大きく影響するため、画像のように電圧の数値が出るタイプの使用がおすすめです。



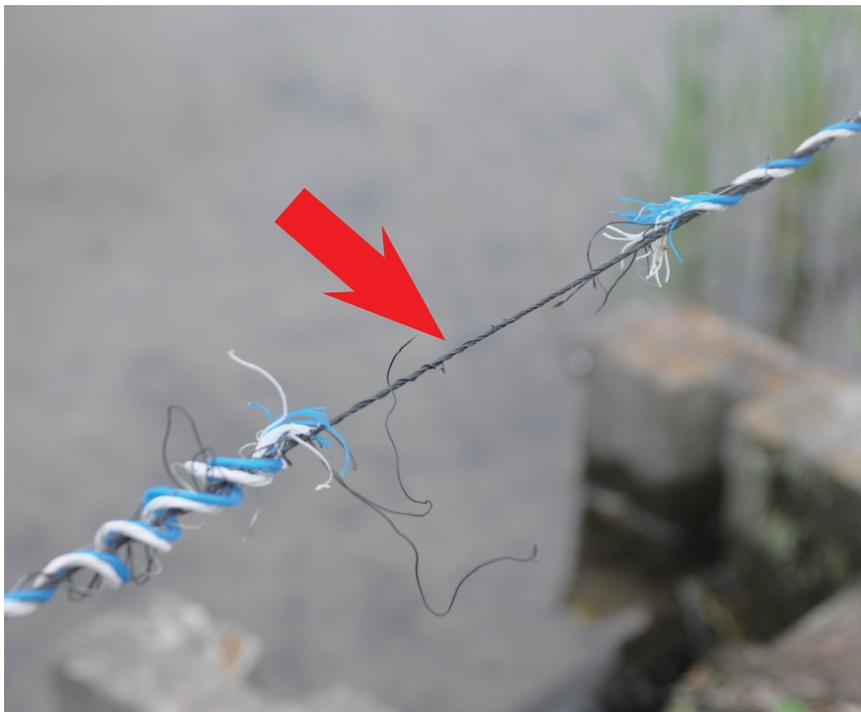
▲定期的に電圧をチェックし、普段の電圧を把握していれば、異変に気づきやすくなります

【電圧点検は複数か所で】

電圧の点検は、電柵の複数か所で行ってください。電牧器付近が一番電圧が高く、距離が離れるほど電圧が低下していきます。図のような断線や漏電があった場合、問題のあるか所を過ぎた地点で電圧が大きく下がるため、電圧が大きく変わった場合には近く

にトラブルがあると考えられます。また、電牧器付近で電圧が十分でも、遠くで電圧が不足していると、そこから動物に侵入されてしまうため、電池の交換や総延長の調整、電牧器の追加などの対策が必要になります。

▶ケーブルの断線。断線するとその先に電気が届かなくなるため、動物への防除力がなくなってしまう。各段の横糸を縦に結ぶ渡り線を施すことで、断線しても電流を届けることができます。



▶小さな針金が柵線に刺さって漏電してしまっている。電気を通す金属類と触れていないか注意してください。

【ショートや漏電を防ぐ】

電圧が低下する原因として、柵線の末端と柵線の間で電気がショートすることや、金属などと触れることで漏電を起こしていることがあります。柵線の末端はねじって巻き付けることでショートを防げます。漏電は、地

面や金属、植物と柵線が触れないよう調整が必要です。電圧チェッカーでの点検のほか、ショートの場合音や光が出ている場合があるため、暗く静かな夜間に点検することも有効です。



▲電柵の支柱を受ける鉄パイプに柵線が触れて漏電していた例。このとき、支柱の前後で電圧が大きく低下しており、近くを調べた結果漏電が見つかりました。電圧チェッカーを用いることで、問題か所を見つけやすくなります。



柵線の末端をねじって
ショートを防止！



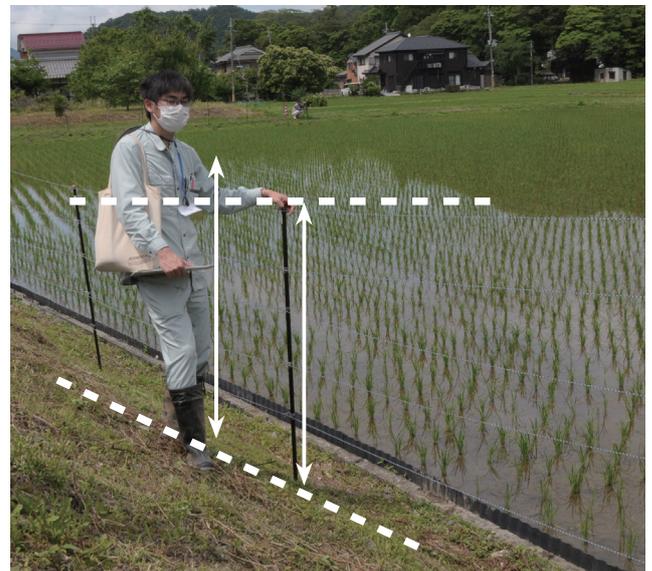
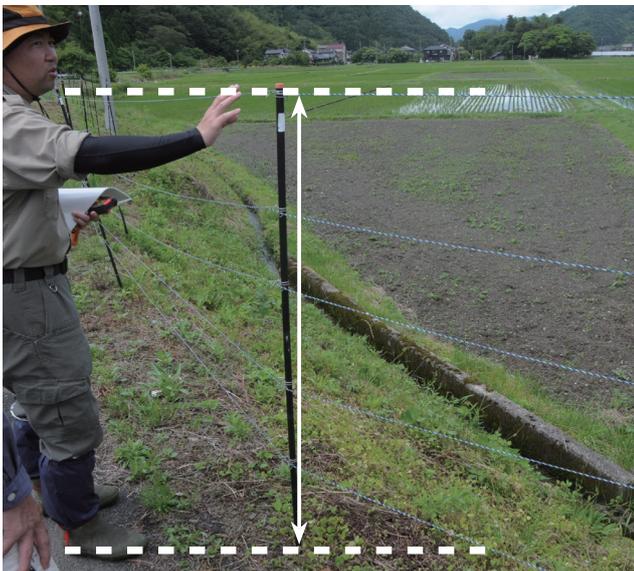
【電圧は段数によって変わる】

電牧器は、出力によって設置できる延長が変わってきます。ただし、この延長は、柵線の総延長であり、3段で設置すれば囲っている延長の3倍、5段なら5倍の距離を柵線が巡っていることとなります。このため、実際には有効な電圧が出ていない場合もあります。電牧器の追加や柵延長の削減が難しい場合には、上の1, 2段をダミーのロープにすることも対策方法の一つです。

シカ、イノシシのどちらも、一番感電しやすいのは鼻先のため、下の1～3段が特に感電しやすく、上段は、飛

び越えられない高さだと思わせる意味合いもあることから、柵線の延長を短くし、電圧を上げるためであれば、上段の通電を止めるのも一つの方法です。

また、斜面に電気柵を設置している場合、斜面の分柵が低く見えてしまい、シカが飛び越えようとする恐れがあります。このような場合には、通電しないダミーのロープでも、上に2段程度追加することで、飛び越えのリスクを下げるすることができます。



▲同じ5段の電柵でも、平地では人の顔ぐらいの高さになるのに対し、斜面では胸ぐらいの高さになってしまいます。この高さの差によってシカが電気柵を飛び越えてくる可能性があります。

電気柵が最大の効果を発揮できるよう、日々の管理をお願いします。

【発行元・問い合わせ先】
舞鶴市農林水産振興課
林業振興・有害鳥獣対策係
電話：0773-66-1030